

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

| | | | | | |
|------|-------------------------|-----|-------|-----------|---|
| 法人名 | 社会福祉法人 森の宮福祉会 | 代表者 | 石塚 克哉 | 法人・事業所の特徴 | 基本理念「笑顔・まごころ・ハーモニー」を念頭に寄り添う介護、支援を職員一同取り組んでいます。「通い」を中心に「訪問」「泊り」を組み合わせたサービス提供を行っています。音楽を取り入れたリハビリやレクリエーションにも力をいれています。 |
| 事業所名 | 小規模多機能型居宅介護 ハミングベル緑橋 | 管理者 | 小栗 健太 | | |

| | |
|-----|-----------------------------------|
| 出席者 | コロナ禍のため書面にて報告を行い、意見を返信してもらう方式で実施。 |
|-----|-----------------------------------|

| 項目 | 前回の改善計画 | 前回の改善計画に対する取り組み・結果 | 意見 | 今回の改善計画 |
|--------------------------|--|--|---|---|
| A. 事業所自己評価の確認 | 取り組みしている内容を簡潔にまとめ掲示する。新しい職員にも取り組み内容がすぐに理解できるようにする。 | 取り組み内容を掲示し、会議内でも議題に上げ、継続して取り組めるようにした。 | 全員で取り組んでいる姿勢は感じる。完全にできなくても努力されていると思う。目標達成となるよう日々頑張ってください。 | 外部研修へ参加しやすい体制を整え職員のスキルアップを目指す。 |
| B. 事業所のしつらえ・環境 | 引き続き感染症対策を行いながら安全安心して過ごしてもらえる環境を整えていく。 | 決められた感染対策を日々継続して行った。 | 用事がある時は入りづらいなど思わずに訪問しています。特に何か入りやすい工夫はありますか？ | 来所時や送迎、訪問、電話対応時などの挨拶時に笑顔で明るいトーンの声を意識して、来てもらいやすい事業所を目指す。 |
| C. 事業所と地域のかかわり | 引き続き感染症の感染状況を踏まえて地域との関りを検討していく。 | ふれあい広場への出演やリモートにて地域の会議などに参加した。 | 会議やふれあい広場などのイベントに参加している。わからないことが多いですがしっかりとされていると思います | 感染症対策の緩和の状況をみながら、地域との関りを増やしていく。 |
| D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取り組み | 引き続き感染症の感染状況を踏まえて地域との関りを検討していく。 | コロナ禍で中止していた利用者のふれあい広場の参加や状況を見ながら散歩などの外出を行った。 | 高齢者が地域のイベントに出にくいのはしかたがない。状況を見ながら参加していけると良いのではないかと。 | 感染症対策の緩和の状況をみながら、外出の機会を増やし地域との繋がりを増やしていく。 |
| E. 運営推進会議を活かした取り組み | 書面開催の場合は引き続きわかりやすい内容になるようにしていく。感染者数が落ち着いている場合は集合開催ができるように検討する。 | 年間通して書面開催にて行った。感染対策のため集合開催ができずにいた。 | 他の事業所は紙一枚で報告がある程度の所も多いが広報誌等をつけて利用者の様子をわかりやすく説明してくれていると思う。 | 集合開催での運営推進会議を再開し、構成員の方々から直接意見をいただく。 |
| F. 事業所の防災・災害対策 | 感染症が流行していることを想定した災害時の対応マニュアルを作成する。 | マニュアルは作成中で完成までに至っていない。 | 日昼に災害が発生した時には頼りたい資源になっていただきたいと思います。 | B C P (事業継続計画) を作成し、計画に沿った運営を行う。 |